

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

研究推進産学官連携機構

部局長名：

山本 進一

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p>	<p>自己評価</p>
<p>①-1 目標</p>	
<p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	
<p>②研究領域</p>	<p>自己評価</p>
<p>②-1 目標</p>	
<p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p>	<p>自己評価</p>
<p>③-1 目標</p>	<p>第10回目の「岡山大学知恵の見える市2015」を全学主催で創立五十周年記念館にて12月に開催して、1件の講演、74ブースの出展、内6件の口頭プレゼンテーションを行った。参加者数は、来場者および学内関係者を含めて490名と過去最多であった。本学臓器移植医療センター・大藤剛宏教授に依頼した講演「移植医療の革新―世界初「ハイブリッド肺移植」手術の現状と展望」は非常に感動的な内容で、参加者の反響が大変良かった。来場者アンケートは192枚を回収し、今後役に立てる材料としてワーキンググループ反省会でも内容を吟味したところ、企業関係者は25%(47名)、居住者は岡山市が7割(136名)、県外者が15名、行事告知は案内チラシとホームページを見た人が多かった一方で産学官融合センターメールマガジンや岡山県産業振興財団が配信するOpticnewsで7回配信したメルマガを意欲した方は1割(26名)と少なく、講演の評価は5点満点で4.7点と非常に高く、口頭プレゼンテーションには9～19名が興味を示し、全体的に仕事に役立つ情報があったかとの問いに学外者の「はい」は50名で「いいえ」の11名を上回り、学内向けにも広報を行うべきと言った意見が学内外からあった。14:10に締め切った時点でのアンケート集計結果から、反響の高かった上位3ブースの研究者に山本機構長から優秀出張賞の表彰状を授与し、後日報奨金(5万円/件)を寄附金として振り込んだ。これは第10回記念行事として行ったが、次回以降も継続することとなった。</p>
<p>①研究成果の展示発表及び公開講座の実施 ・第10回目となる「岡山大学知恵の見える市」を全学主催で開催し、地域企業への案内を行い参加を促す。また、出張賞の表彰を行うなどの内容の充実も図り、教員・企業への積極的な参加を促す。これにより、地域企業と教員の接点の場を形成し、連携研究のきっかけ作りのための場を充実させる。</p> <p>・本学の研究成果についてのアウトリーチ活動として、岡大サイエンスカフェを市民の科学技術・保健医療・人文社会科学などの関心を反映させたテーマにより継続する。さらに、首都圏での岡山大学の知名度を上げるために、引き続き「中央区民カレッジ」連携講座に参加する。</p>	<p>本学の研究成果についてのアウトリーチ活動として、岡大サイエンスカフェを引き続き隔月に開催している。人文系、理工系、医療系の各テーマについて実施し、毎回110～130名の参加者を得ている。さらに、首都圏での岡山大学の知名度を上げるために、引き続き「中央区民カレッジ」連携講座に参加し、11月の毎金曜日に計4回開催し、アンケートの結果「よかった」との回答が94%であり、好評を博した。</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	
<p>来場・来客者数(目標:平成26年度と同水準)</p>	
<p>④機構業務</p>	<p>自己評価</p>
<p>④-1 目標</p>	<p>中央省庁やファンディングエージェンシー等からの情報収集を積極的にを行い、外部資金獲得に向けた研究プロジェクト立ち上げ支援を行い、「JSPS平成27年度新学術領域研究(研究領域提案型)」、「JST国際科学技術共同研究推進事業(戦略的国際共同研究プログラム)」などの採択(内定)につなげた。</p>
<p>①外部研究資金等の獲得の推進 ・社会的に重要性の高い研究課題を分析し、大型競争的資金獲得に繋がる研究プロジェクトを提案し、岡山大学の強みを活かした企画に仕上げる。また、研究大学強化促進事業の計画に従い戦略的な研究推進を実施するために、平成26年度に設置したグローバル最先端異分野融合研究機構の研究活動の中間評価を行い、更なる研究活動の活性化に向けた支援を行うとともに、URA等をコアとして、国際連携に繋がる研究を推進し、国際共同研究を促進する。さらに、ポテンシャルの高い先端研究を把握し、支援策の検討を行うとともに、研究成果の認知度向上の支援を行う。</p>	<p>研究大学強化促進事業の計画に従い戦略的な研究推進を実施する目的で、平成27年6月及び9月にグローバル最先端異分野融合研究機構及び自然生命科学研究支援センター、異分野融合研究コアにおける研究活動報告会を実施し、活動状況の把握を行った。併せて、今後の活動の方向性及び支援について意見交換を行った。また、グローバル最先端異分野融合研究機構の研究活動の中間評価を実施している。(3月中旬に評価終了予定)</p> <p>学内研究者との面談や研究成果発表等を通じ、学内研究シーズの収集を行い、イギリス、カナダ、イタリア、フランス等の研究者とのマッチング及び共同研究プロジェクトの立ち上げを推進し、1件は採択に至り、2件は立案中である。また、インド国との連携強化のため、インドの研究機関(コルカタ、トリバンダム)への研究者、病院関係者を派遣し、国際共同研究連携会議を4回開催し、連携強化を図った。</p> <p>ポテンシャルの高い先端研究について、積極的かつ戦略的なプレスリリース等を通して国内外への研究成果発信を行った。URAを中心に、海外大学研究機関を訪問し、ポテンシャルの高い研究プロジェクトの紹介も積極的に行った。また、研究大学強化促進事業の一環として、若手のアクティブな研究者6名を対象に、海外に派遣し研究成果発表を行うプログラム「SAKU」を実施し、岡山大学の認知度向上及び国際連携先の開拓にむけた取り組みの強化を行った。</p> <p>岡山大学の現在の国際的認知度を把握し、これまでのアウトリーチ活動の成果や今後の活動の参考にするために、インターネットを使ったアンケート調査をアメリカ科学振興協会(AAAS)に依頼し、実施した。また、個別の先進的研究成果や女性研究者を、関係省庁に積極的に紹介するとともに、積極的に省庁関係者の招聘や会合への参加を促し、教員の政策への関心度を高め、大学のポテンシャルについて普及を図った。</p>
<p>・URAや研究推進本部等の学内組織を中心に、学内・学外とのコラボレーションの推進や外国人研究者の招聘支援を行い、異分野連携や新分野の創出に向けた支援を行う。</p>	<p>外国人研究者を岡山大学に招聘し「URA Internationalセミナー」を実施し国際レベルの異分野連携やプロジェクト創出に向けた支援を行った。また研究者の研究戦略を発表し、そのシーズとニーズを研究力強化に結びつける「岡山大学Future Session」を5回開催した。他方、本学が拠点を務める農林水産省異分野融合共同研究事業において「革新的ウイルス対策技術分野教習共有化プラットフォーム」をURAが構築し、国内では岩手、東京、岡山、奄美、鹿児島で、海外では世界的最高級の獣疫研究所であるハルビン獣疫研究所(中国)や有数の農業産地である内モンゴルにおいて国際ワークショップを開催し、本学を起点に国内外研究機関との連携を深めた。</p>
<p>・グローバル最先端異分野融合研究機構の各教員が集中して研究を行える環境を提供する。また、URA等が「橋渡し研究加速ネットワークプログラム拠点」プロジェクト、異分野融合研究プロジェクト等に参画し、具体的なプロジェクトの立案、提案ができる環境を構築する。</p>	<p>URA、研究推進本部等を中心に外部資金情報の提供や申請支援等を積極的にを行い、研究者が研究に専念できる研究活動推進体制を強化するとともに、海外マッチング先の開拓等を支援し、国際連携強化を行った。また、プレスリリース等を中心にHPでの積極的な情報発信や東京・横浜等で行われる展示会への出張支援により研究成果の公開を行った。</p>
<p>・科研費キャンペーンを行うとともに、若手と新任の教員などを対象として、科研費応募調書の書き方講習会を主とした書き方講習会を引き続き実施する。また、科研費応募調書の添削数を増やす仕組みを作り、記載内容の改善を進める。さらに、大型種目への応募を増やすため、キャンペーンを増強し、不採択時のセーフティネットを拡大する。</p>	<p>科研費キャンペーンおよび、若手と新任の教員などを主対象とした科研費応募調書の書き方講習会を、大型種目への応募、文系分野での応募、審査委員会からのアドバイスなどを含めて、津島および鹿田地区でそれぞれ3回ずつ実施した。また、科研費応募調書の記載内容の改善のため、応募調書の添削についても8月に実施した。添削の実施に先立っては応募調書ブラッシュアップの必要性を訴えるとともに、科研費申請および応募調書添削に対する意向を調査した。さらに、大型種目への応募を増やすため、キャンペーンを行い、H27年度大型種目および基礎Bで不採択(評価ABのみ)の教員80名に対して、今回も同様な種目への応募を要請し半数から返信を得た。平成27年度大型種目の不採択時のセーフティネットについては、4名に支援を行った。科研費で新設された国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)への応募も呼びかけ、有資格者109名のうち25名が応募(応募率:全国平均の2倍)し、7名(採択率:28%)が採択された。</p> <p>科研費大型種目の獲得増大のために、H27年度の科研費細目別採択数(過去5年間の新規採択)、岡山大学が上位10機関に入っている各細目(細目数:54)において、リーダーと目される教員に研究グループの形成と応募増加の要請を2月初旬に行った。内36名から回答があり、前向きな回答が12件に上った。</p>
<p>・URA執務室を中心に、書誌情報やランキングに関するデータを収集し、その分析を継続する。また、「橋渡し研究加速ネットワークプログラム拠点」に選定され、中国・四国拠点としての整備が進む岡山大学での新たな学内シーズ探索から得られる情報も加え、全学規模での研究者を特定した研究力の分析を進め、外部評価、各種客観的データを指標として、研究者及び研究プロジェクトを評価・検証し、研究大学としての強みの特定と再確認を進める。</p>	<p>研究の量および質に着目した書誌情報に基づき、大学全体及び研究分野別における研究力分析を進めた。また、特定部局および研究グループに関する論文情報を取りまとめ、多方面より研究分析を行った。さらに、高被引用論文(トップ1%被引用論文)を研究者個人と紐付け、分野別及び組織別に振り分けることで分野における大学のトップ研究者を特定した。また、組織および教員個人の研究論文情報整備を進めることにより、研究パフォーマンスの向上に繋がるように取り組んだ。</p> <p>各種の世界大学ランキングに関する最新情報を収集・整理し、本学の立ち位置を明確にすると同時に、大学ベンチャーキングを行った。また、トムソン・ロイター社が選出した「高被引用論文著者:論文の引用動向分析による、影響力の高い科学者」(2015年)に本学の馬教授と山田准教授の両名が選出される画期的な事例をもとに、影響力のある研究者の探索や研究力強化・促進につながる研究戦略策定・広報・情報提供などのマネジメントを実施した。</p>

